

心臓リハビリテーション学会発表

令和8年3月15日に「日本心臓リハビリテーション学会第9回四国支部地方会」(徳島市)に参加・発表して参りました。

私は「術前心臓リハビリテーションを実施した高齢心不全患者の報告」という題目で、フレイル(虚弱)を有する高齢心不全患者さんが、無事手術を実施するために、入院下での術前心リハ(運動・栄養)の重要性を説明しました。

今回の検討では冠動脈バイパス手術前の患者さんが多数を占めましたが、患者さんの高齢化を考えると他の術式も含め周知・拡大が期待されます。

当科吉井豊史医師からは「術後の心臓リハビリテーションにおける基幹病院との連携による心臓血管外科回診の導入効果の検討」という題目で、令和6年10月より地域医療連携の一環として、当院から近距離にある「愛媛大学心臓血管外科」医師2名(隔週交代制)による術後回診を開始した結果、患者さん

の満足度が上昇したことや、術後から当院退院までの日数が短縮できたことを報告しました。

創部(手術の傷口)の治りが遅かった患者さんでも当院へ早めに転院し、リハビリをしながら慎重に抜糸できました。基幹病院から当院へ心リハ目的での紹介件数は増加しており、当院に対する信頼・期待と受け止めています。

最後になりますが、八木秀介会長(徳島大学)も述べられています通り、心リハは単なる運動だけでなく、多職種が連携して患者さん中心の包括的ケアを実現する医療モデルです。これからも病院スタッフ間、他院とも密に情報共有しながら、患者さんにより満足して頂ける心リハを提供できるように努めて参ります。(循環器内科医師 関谷健佑)

